

漢字ブームに拍車をかける漢字検定

日本語ワープロの普及により、これまで「書くのに手間がかかる」「忘れた字をいちいち辞書で調べるのが面倒」といった理由から敬遠されがちだった漢字が、キー操作一つで、簡単に変換され、印字できるようになりました。こうした時代背景も「書けなくても読める字、知っている言葉であれば、積極的に漢字を使おう」という傾向を後押しする要因になっていると思われます。

ただし、漢字というのは同音異字がとても多いため、いくら自分で書く必要がないとはいっても、ある程度の“漢字力”がないと、どんなに優秀なワープロ機やワープロ・ソフトを使っても正しく変換することができません。そのため最近では、大人の間にも、改めて漢字を学習しようという人が増えてきました。

これに拍車をかけたのが“漢字検定”です。漢字検定とは、財団法人日本漢字能力検定協会が文部省の認定を得て試験を行い、能力に応じ級位を授与するものですが、その応募者は年々増加の一途をたどり、最近一年間の受験者の数は130万人を超えた、と伝えられています。130万人と言いますと、単純に計算すれば日本人の100人にひとり、ということですから、これはたいへんな数です。

そして、この“漢検”の級位は、かつての“英検”と同様、あるいはそれ以上に、個人の能力を証明する資格として社会的にも認知されるようになり、現在では入社試験はもちろん、大学入試にも級位が影響を

及ぼすほどになっているのです。

漢字の重要性を考えたら当然のこととはいえ、こうした漢字ブームが起こっているのは、私としても嬉しい限りです。